

三宅島

概況(平成14年11月)

火山活動は全体として低下傾向にあります。

24日に小規模な噴火が発生し、島内で微量の降灰を確認しました。山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、依然として高い値です。振幅の小さな低周波地震が時折やや多い状態となりましたが地震活動は全体的に低い状態です。三宅島の収縮を示す地殻変動は鈍化しています。

以上のことから、火山活動は長期的に低下傾向にありますが、今後も小規模な噴火は発生する可能性があります。

風下では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第610号 (1日2回発表)	1日 09:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想 第657号は小規模噴火の状況
火山観測情報第669号	30日 16:30	

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

11月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。(表2、図2 -)

表2 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
11月13日	4,900トン 4100トン 4800トン	212 (参考値)	警視庁
11月28日	10,900トン 6600トン 9300トン	-	陸上自衛隊

参考値：強風により、ヘリコプターが通常観測を実施している距離まで接近できなかったため。

噴煙活動の状況

24日13時20分頃、島内南西部でごく少量の降灰が確認されました。噴煙の状況は雲のため不明でしたが、13時16分に低周波地震が発生しており、その頃に小規模な噴火が発生したとみられます。小規模な噴火の発生は、本年10月8日以来です。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上1,000m(6,29日)でした。(図2 -)

地震活動の状況 山頂直下の地震活動は低い状態でした。

中旬に低周波地震の回数が時折やや多い状態となりましたが、いずれも数日以内に収まりました。(表3、図2 - ~)

連続微動のレベルは、長期的には低下傾向にあります。(図1)

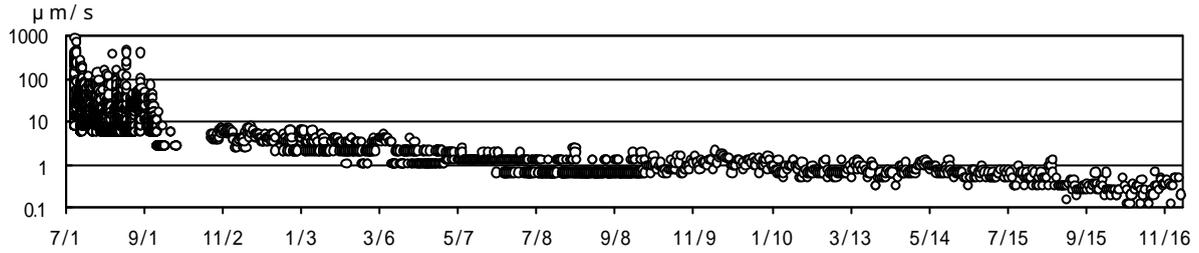


図1 連続微動の振幅(2000年7月7日~2002年11月30日)

地殻変動の状況

GPSによる地殻変動観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、長期的には鈍化傾向にあります。(図3)

表3 火山性地震日別回数表(三宅島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	1	0	4	2	1	3	1	1	3	0	16	
やや低周波地震	2	3	0	1	0	1	9	21	0	1	38	
低周波地震	0	1	1	0	1	0	0	16	2	0	21	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	1	5	6	3	3	2	2	1	2	1	26	
やや低周波地震	0	2	61	0	2	7	43	21	17	1	154	
低周波地震	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	2	0	1	2	1	1	1	2	1	2	13	55
やや低周波地震	5	8	5	0	6	1	0	1	3	3	32	224
低周波地震	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	24



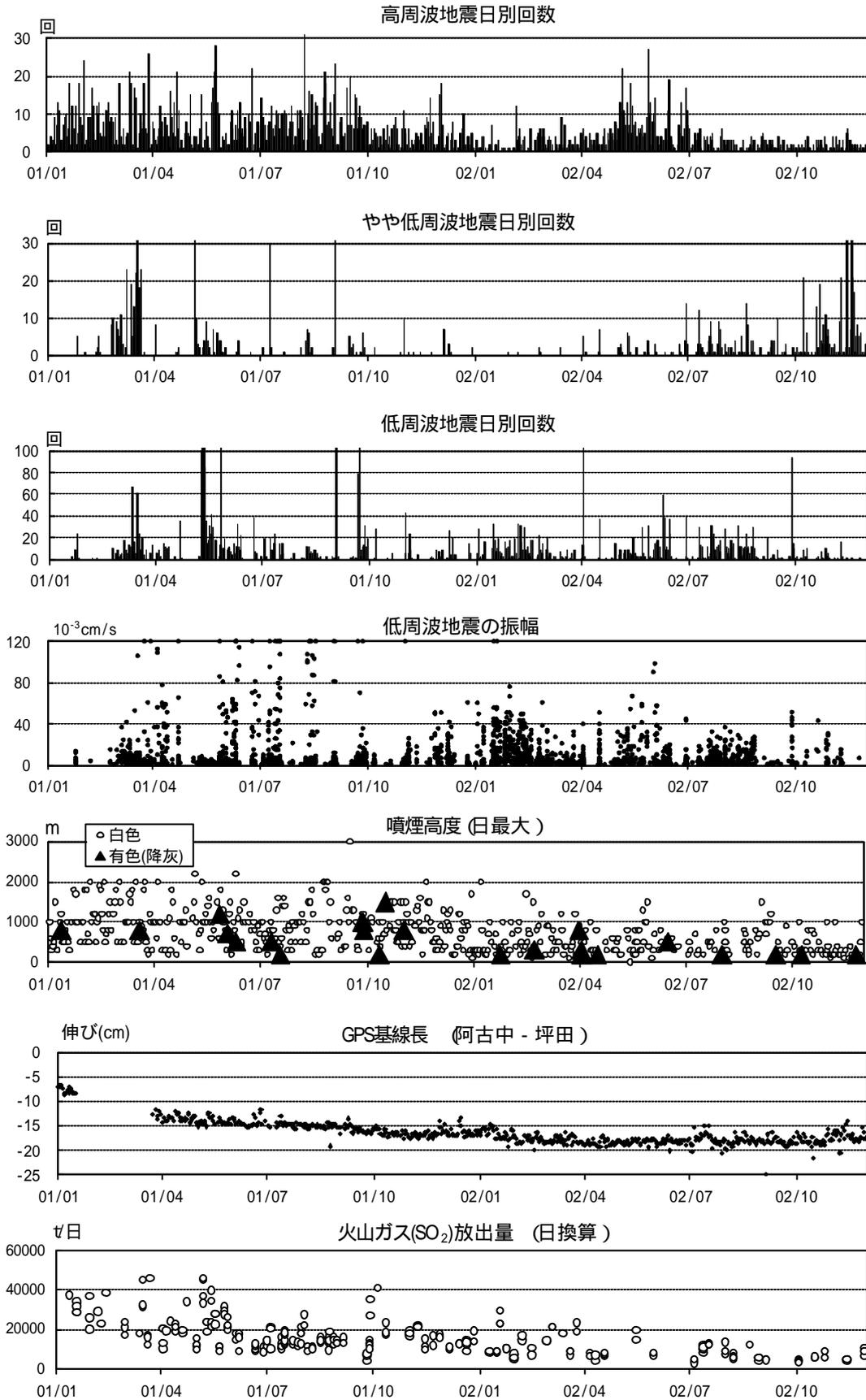
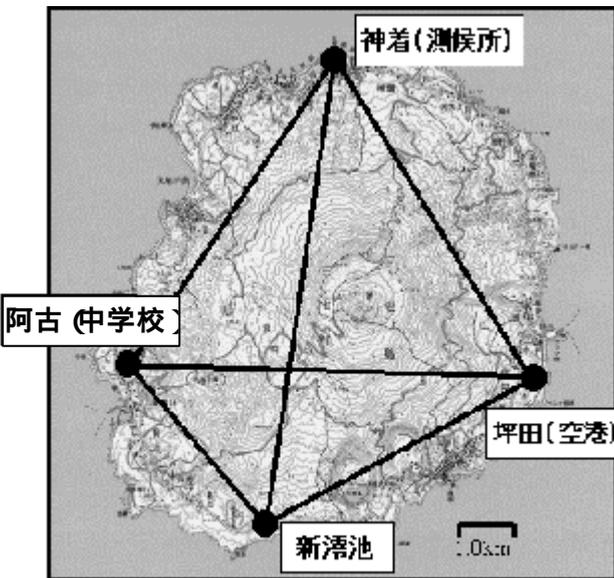
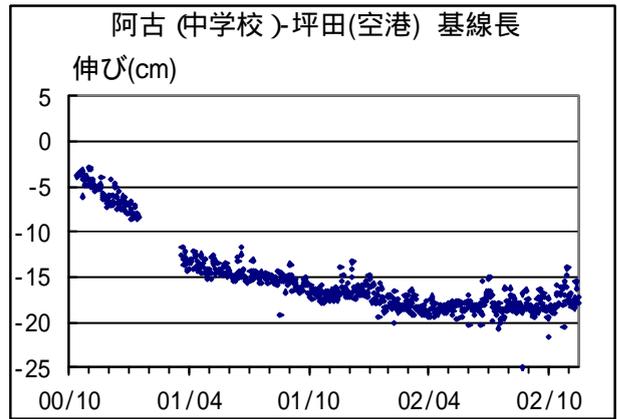
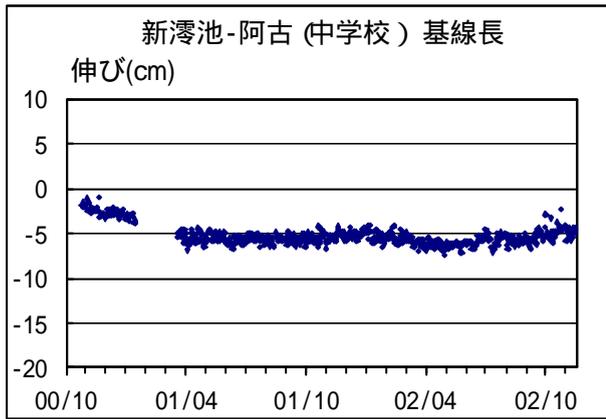
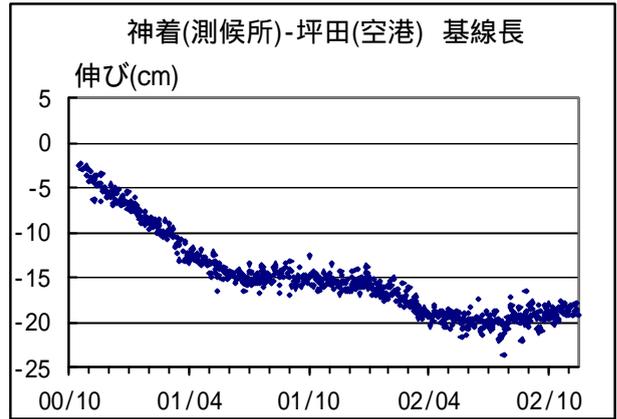
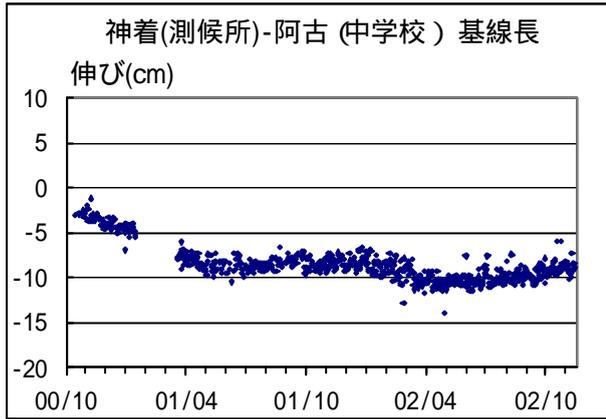


図2 三宅島火山活動経過図(2001年1月1日~2002年11月30日)



気象庁GPS観測点配置図

基線長の変化には季節的な変動が含まれている可能性がある。
2002年1月から5月にかけて見られる収縮傾向の加速的变化は火山活動の変化によるものではないと考えている。

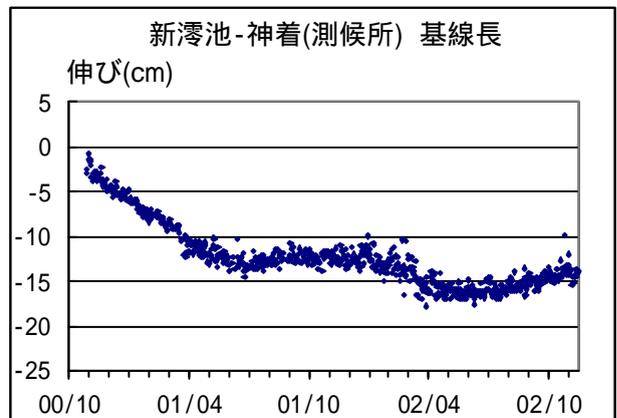
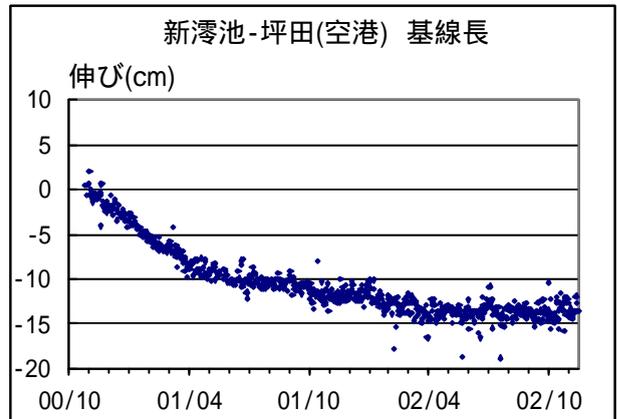


図3 三宅島GPS(オンライン)観測結果(2000年10月1日~2002年11月30日)